

# 地球上の核弾頭全データ

2011年7月

## 【解説】

中国、ロシア、フランスに関する新しい情報をもとにして、今回の図説は大幅に作りかえた。同時に前回からのつながりをわかりやすくすることも心がけた。

核弾頭について公的な情報が出はじめたとはいえ、まだまだ公開性は不十分である。フランス政府は2008年3月21日に核弾頭の総数を300以下に減らせる予定と発表した。それ以後の発表がないが、これが公的発表の核弾頭数と考えられている。2010年NPT再検討会議に臨んで、5月3日、米政府は全備蓄核弾頭数を5113発と公表するとともに、その年の年毎の変遷も公表した。同年5月26日、イギリス政府は議会に対して備蓄核弾頭数は将来225発を超えず、作戦に供する核弾頭数は160発以下であると発表した。

2010年5月3日の米国国防総省ファクトシートは、02年核態勢見直し(NPR)と同様、弾頭の保管状態を「活性状態」と「不活性状態」に大別している。前者はそのまま使用できる弾頭であり、後者は時間が経過すると劣化するトリチウムや電池などを除いて貯蔵している弾頭である。この点も含めて、本誌で行ってきた従来の弾頭の分類方法を今回も踏襲する。ただ、米国で明らかになっているこのような分類方法が、その他の国でどこまで通用するかは、必ずしも明らかではなく、以下のデータ整理では便宜的なものにならざるをえない。注記によって、それを可能な限り補った。

- ①作戦配備の弾頭** 部隊に配備・貯蔵されている活性状態の弾頭。(ただし、オーバーホール中の原潜の核弾頭は作戦配備に含めない。)
- ②兵站予備の弾頭** ルーチン整備・検査のために確保されている活性状態にあるスペアである。米国の戦略核兵器については推定するための一定の情報がある。概ね①の5~10%である。
- ③予備貯蔵の弾頭** 活性、不活性を含め、再使用の可能性を想定して貯蔵しているもの。迅速対応戦力もこれに含めた。迅速対応戦力とは、作戦配備から外した核弾頭の中でも情勢の変化によって復活させることを前提として活性状態で貯蔵するものである。
- ④退役弾頭** 運搬手段から外され解体を前提に保管されている核弾頭。

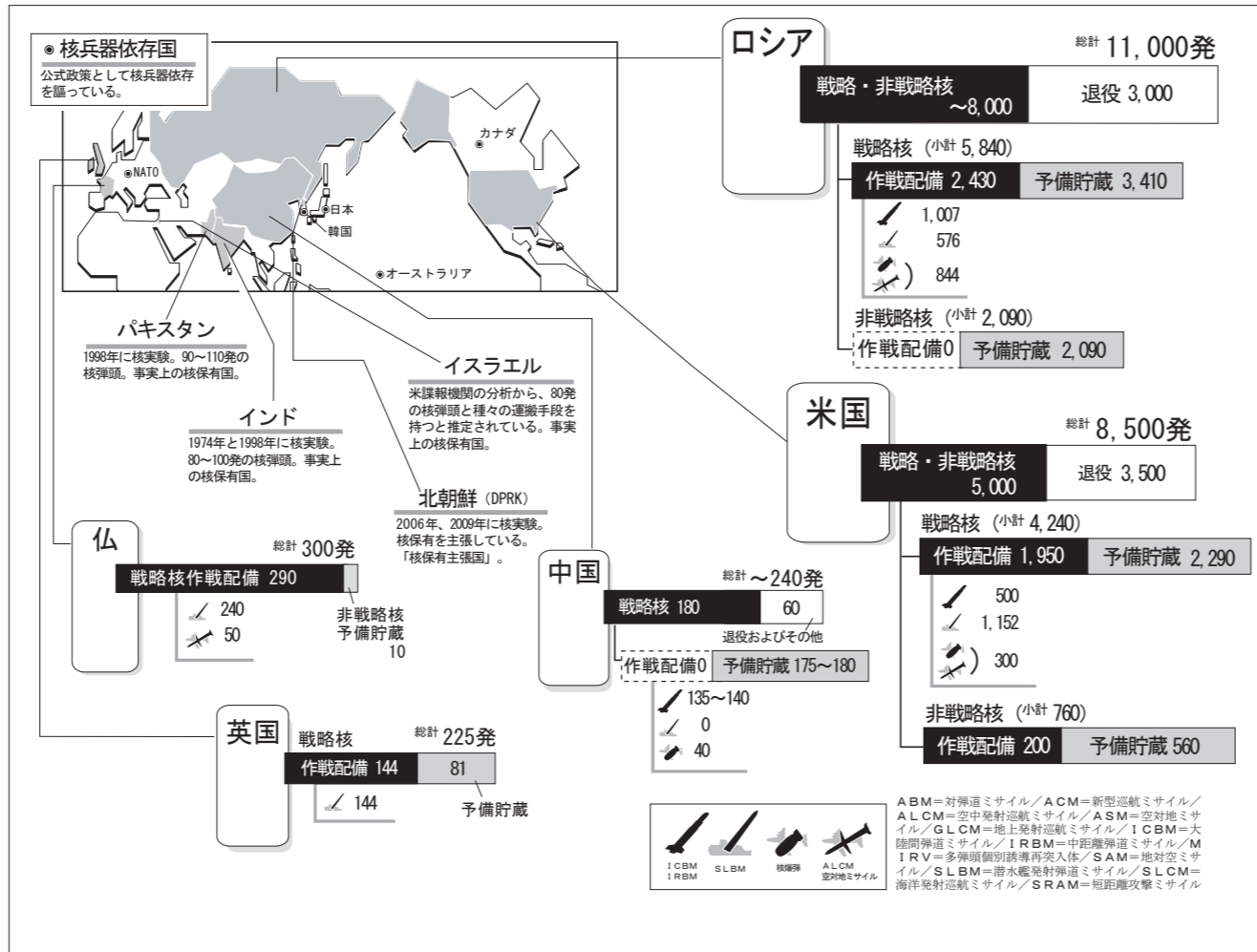
以下の図表の作成においては、②と③を合わせて「予備貯蔵」とする。

中国においては、作戦配備された戦略核の運搬手段に核弾頭は搭載されず、分離して貯蔵されていることが明らかになった。貯蔵のされ方の詳細は不明である。したがって、米国の概念での作戦配備弾頭はゼロになる。

米国では、他に、弾頭の形ではなくて、一次爆発用プルトニウム・ビット14000発と二次爆発部分5000発を分離して貯蔵しているとされる。

北朝鮮(DPRK)は2度の核実験を行い、核保有国であると主張しているが、弾頭化/兵器化に関しては情報が無い。本図説では従来通り「核保有主張国」と位置づけた。

事実上の核兵器保有国と見なされるインド、パキスタン、イスラエルを含めると、地球上には今なお20500発を超える核弾頭があり、オーバーキル状態は変わらない。



## ヨーロッパ配備の米核爆弾

国名	基地	搭載機 (所属国)	核爆弾の数		計
			米国分担	受入国分担	
ベルギー	クライネ・ブローゲル	F-16(ベルギー)	0	10~20	10~20
ドイツ	ビュヒェル	PA-200(独)*	0	10~20	10~20
イタリア	アビアーノ	F-16C/D(米)	50	0	50
オランダ	フォルケル	F-16(蘭)	0	10~20	10~20
トルコ	インジリク	F-16C/D(米)	60~70	0	60~70
合計			110~120	40~80	150~200

(表注)\*PA-200は、米独伊共同開発の戦闘爆撃機で、「トルネード」と通称される。

出典: 「ニュークリア・ノートブック」(「プレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト」に連載)を基本にしなが、S・ノリス(天然資源保護評議会(NRDC, 米国)), H・クリステンセン(全米科学者連盟(FAS)), パベル・ボドビク(ロシア戦略核能力プロジェクト, ロシア), グレゴリー・カラキー(憂慮する科学者同盟)などの文献を参考にして作成。

## NPT 加盟核保有国の核弾頭数

弾頭の分類	2011年7月						
	米	ロ	英	仏	中	合計	
戦略核	ICBM/IRBM	500	1,007	0	0	0	1,507
	SLBM	1,152	576	144	240	0	2,112
	爆撃機搭載核兵器	300	844	0	50	0	1,194
小計	1,950	2,430	144	290	0	4,813	
予備貯蔵	2,290	3,410	81	?	175~180	5,960	
小計	4,240	5,840	225	290	175~180	10,775	
非戦略核	作戦配備 空軍航空機	200	0	0	0	0	200
	予備貯蔵	560	2,090	0	10	0	2,660
小計	760	2,090	0	10	0	2,860	
合計	5,000	~8,000	225	300	180	13,705	
退役およびその他*	3,500	3,000	0	0	60	6,560	
総計	8,500	11,000	225	300	240	20,265	
(うち予備貯蔵小計)	(2,850)	(5,500)	(80)	(10)	(180)	(8,620)	

丸めのため合計にくい違いがある。  
\*米ロに関しては退役弾頭、中国に関しては退役、未配備など内容是不明確。

核兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
<b>戦略・非戦略核 (合計 5,000)</b>		
<b>戦略核 (小計 4,240)</b>		
【作戦配備 (小計 1,950)】		
●ICBM (小計500)		
ミニットマンIII		500
Mk-12 型 (弾頭: W62)	170	0 <sup>1</sup>
Mk-12A 型 (弾頭: W78)	335	250 <sup>2</sup>
Mk-21 型 (弾頭: W87)	300	250 <sup>3</sup>
●SLBM <sup>4</sup> (小計 1,152)		
トライデント II D5		1,152 <sup>5</sup>
Mk-4 型 (弾頭: W76)	100	568
Mk-4A 型 (弾頭: W76-1)	100	200 <sup>6</sup>
Mk-5 型 (弾頭: W88)	455	384
●爆撃機搭載核兵器 <sup>7</sup> (小計 300)		
核爆弾 B61-7	可変<1~360	100 <sup>8</sup>
B61-11 <sup>8</sup>	5	
B83	可変<1,200	
ALCM (弾頭: W80-1) <sup>10</sup>	5~150	200
【予備貯蔵 (小計 2,290)】 <sup>11</sup>		
<b>非戦略核 (小計 760)</b>		
【作戦配備空軍航空機 (小計 200)】		
核爆弾 B61-3,4	0.3~170	200 <sup>12</sup>
【予備貯蔵 (小計 560)】		
トマホーク SLCM W80-0	5~150	260
B61-3,4		300
<b>退役 (小計 3,500)</b>		

- 2010年8月2日に退役は完了。
- 1~3MIRV×200基。
- 単弾頭が250基。W62を置きかえている。
- オハイオ級戦略原潜12隻に搭載。ミサイル数は288基(12×24)。原潜数は14隻であるが、常時2隻はオーバーホール。
- 12隻×24発射管×4MIRV。
- W76-1は2008年10月末から配備が始まった。
- ストラトフォートレスB-52H(93機のうちの44機)、スピリットB-2A(20機のうち16機)、計60機が任務(核・非核両用)に使われている。B-2Aは爆弾のみ。警戒態勢は低い。
- 海中貫通型(1997年11月に導入)。貫通は6m。B-2Aにのみ搭載。
- B-2Aのみ。
- B52Hのみ。
- 常時オーバーホール中の2隻のオハイオ級原潜のトライデント弾頭48基、192発。数100の核爆弾と巡航ミサイル。戦略核の7.5%として兵站予備150発など。
- 迅速対応戦力も含めて200個がNATO軍用としてヨーロッパ5か国の6か所の空軍基地に配備(別表参照)。

核兵器の名称	爆発力 キロトン	核弾頭数
<b>戦略・非戦略核 (合計 8,000)</b>		
<b>戦略核 (小計 5,840)</b>		
【作戦配備 (小計 2,430)】		
●ICBM (小計1,007)		
SS-18 M4, M5, M6 (サタンRS-20型)	500~800	500 <sup>1</sup>
SS-19 M3 (スチレットRS-18型)	400	300 <sup>2</sup>
SS-25 (シッケルRS-12M型)(トーポリ)		800 120 <sup>3</sup>
SS-27 (トーポリM RS-12M2型)		800 51 <sup>4</sup>
SS-27A (トーポリM1 RS-12M1型)		800 18 <sup>5</sup>
SS-27B (トーポリM RS-24型)		400 18 <sup>6</sup>
? (ヤルス) <sup>7</sup>		? ?
●SLBM (小計576) <sup>8</sup>		
SS-N-18 M1 (スチングレイ)	50	192 <sup>9</sup>
SS-N-23 (スキフ)	100	64 <sup>10</sup>
SS-N-23M1 (シネバ)	100	320 <sup>11</sup>
SS-N-32 (ブラバ)	100	0 <sup>12</sup>
? (ライナー) <sup>13</sup>	-	-
●爆撃機搭載核兵器 (小計844)		
核爆弾		
ALCM (弾頭: AS15A, B)	250	844 <sup>14</sup>
SRAM (弾頭: AS16)		
【予備貯蔵 (小計 3,410)】		
<b>非戦略核 (小計 2,090)</b>		
【作戦配備 (小計 0)】 <sup>15</sup>		
【予備貯蔵 (小計 2,090)】		
●ABM/SAM (小計 698)		
53T6 (ガゼル)	1000/10	68 <sup>16</sup>
SA-10 (グランプル)		630
SA-12 (グロウラー)	low	
●空軍航空機 (小計 800)		
核爆弾/ASM AS-4 (キッチン)	1000	800 <sup>17</sup>
/SRAM AS-16		
●海軍用戦術核 (小計 590)		
核爆弾		
ASM AS-4 (キッチン)	1000	590
SLCM	200~500	
対潜核兵器, SAM, 核魚雷, 核爆雷		
<b>退役 (小計 3,500)</b>		

- 10MIRV×50基。START II が無効になり保持。しかし削減が続く。液体燃料。2026年まで保持の見込み。
- 6MIRV×50基。削減する計画。液体燃料。
- 単弾頭。ロシア名 トーポリ。道路移動型で固体燃料。09年に2回の発射テスト(4月20日, 12月10日)。1年に約27発ずつ削減。
- 単弾頭。ロシア名 トーポリM。サイロ型。軌道を変更できる弾頭もある。
- トーポリMの移動型。新しいカムフラージュ。
- RS-24という新型名で08年11月26日に試射成功。推定3MIRV×6。10年7月19日にポポフ国防省第1次官が初配備されたと発表した。
- 移動型(出典:「ブラウダ」11年8月9日)
- 搭載原潜は、デルタIII級4隻、デルタIV級6隻。核ミサイルを搭載しないが、タイフーン級3隻も残っており、発射テストに使われている。
- デルタIII級戦略原潜4隻に搭載。4隻×16発射管×3MIRV。10年10月28日に発射テスト。
- デルタIV級戦略原潜1隻に搭載。1隻×16発射管×4MIRV。11年8月6日、10月28日に発射テスト。10MIRVの能力があるとの情報もある。
- 6MIRVと推定される。08年9月、潜水発射に成功。しかし、09年、7月15日、12月9日の2回発射テストに失敗。10年10月7日、10月29日、更に11年6月28日、発射テストに成功するも計画は遅れている。新型のボレイ型原潜搭載予定。
- 9~12MIRVを開発中。11年5月20日、初の発射テストに成功(出典:「ブラウダ」11年8月9日)。
- ベアH6(Tu-95MS6)32機、ベアH16(Tu-95MS16)31機、ブラックジャック(Tu-160)13機に搭載。ベアH6は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を6個(計192個)、ベアH16は1機あたりAS15Aまたは核爆弾を16個(計496個)、ブラックジャックはAS15BまたはAS16、または核爆弾を12個(計156個)搭載する。
- ロシアの戦術核は全て中央貯蔵されていると申告された。
- ゴゴン・ミサイルはABM任務からはずされた。
- バックファイヤー(Tu-22M)、フェンサー(Su-24)、フルバック(Su-34)に搭載。